

# —開催にあたって—

西ノ前遺跡の土偶は、平成10年に国の重要文化財に指定されました。その造形美の素晴らしさから「縄文ヴィーナス」の愛称で多くの人々を魅了し続け、国内はもとよりアメリカ・フランス・中国などの主だった博物館や美術館に出品されてきました。

土偶が発見された「西ノ前遺跡」については、土偶が発見された状態、縄文むらの様子など、遺跡の全体が公開されることはあまりありませんでした。

この機会に、「縄文ヴィーナス」の仲間が発見された水木田遺跡・原の内遺跡・中川原C遺跡・台ノ上遺跡等の土偶とともに、縄文時代中期の大規模な集落である西ノ前遺跡を紹介します。

企画展は、(財)山形県埋蔵文化財センターで行われてきた豊富な発掘調査資料を広く活用し展示公開することで、埋蔵文化財の保護や普及、教育普及活動の充実などを目的に、博物館と埋蔵文化財センターの2度目の共同開催となります。

台ノ上遺跡の展示品については、米沢市教育委員会よりご協力をいただき感謝申し上げます。

## ■ 展示構成

### ◇ 縄文中期集落・西ノ前遺跡

- ・西ノ前遺跡・水木田遺跡・原の内A遺跡  
中川原C遺跡・台ノ上遺跡の紹介

### ◇ 縄文ヴィーナスの発見

- ・縄文ヴィーナス出土の様子を紹介

### ◇ 西ノ前縄文集落

- ・住居跡や貯蔵穴、土器捨て場の状態、  
など集落の様子を、出土した土器や石  
器なども併せて紹介・展示

### ◇ 縄文ヴィーナスの仲間

- ・水木田遺跡・原の内A遺跡・中川原C  
遺跡・台ノ上遺跡からの土偶

### ◇ 特別展示

- ・縄文ヴィーナスの重要文化財と複製品  
の展示

# 主な展示資料一覧

## 西ノ前遺跡(舟形町)

- 縄文土器 (中期:大木7b式~8a式)
- ・深鉢8点 ・小形鉢8点 ・浅鉢5点

### 土 偶

- ・縄文ヴィーナス(重要文化財)1点
- ・部分片(残欠:重要文化財)42点
- ・縄文ヴィーナス(複製)1点

### 石 器

- ・石鏃4点 ・石錐15点 ・石匙18点
- ・石篋10点 ・打製石斧7点
- ・磨製石斧12点 ・磨石3点外

## 水木田遺跡(最上町)

- 縄文土器 (中期:大木7b式)深鉢2点
- 土 偶 35点

## 原の内A遺跡(尾花沢市)

- 縄文土器 (中期;大木7b式)深鉢1点
- 土 偶 21点

## 中川原C遺跡(新庄市)

- 縄文土器 (中期:大木7b式~8a式)
- ・深鉢6点
- 土 偶 25点

## 台ノ上遺跡(米沢市)

- 縄文土器 (中期:大木7b式)深鉢2点
- 土 偶 105点

## ■ 交通案内

JR山形駅より徒歩15分



※車の場合は霞城公園北門よりお入り下さい。

平成21年度 共同企画展

—縄文ヴィーナスの誕生の地を探る—

にし の まえ  
**西ノ前遺跡**



**2009年**

西ノ前遺跡出土土偶(縄文ヴィーナス)

**5月2日(土)~6月7日(日)**

**展示解説会**

午後1時30分~

5月2日(土)・5月16日(土)

**考古学講座 (第1回)**

『縄文ヴィーナスの古里—西ノ前遺跡』

5月23日(土) 午後1時30分~

(財)山形県埋蔵文化財センター職員

## 山形県立博物館

〒990-0826 山形県山形市霞城町1-8(霞城公園内)

TEL 023-645-1111 FAX 023-645-1112

## (財)山形県埋蔵文化財センター

〒999-3161 山形県上山市弁天2-15-1

TEL 023-672-5301 FAX 023-672-5586



にしのまえ  
西ノ前遺跡（舟形町）

西ノ前遺跡は、縄文時代の中期初頭から中頃まで続いた集落跡で、住居跡や柱穴、貯蔵用の穴、土器捨て場、土器や石器など多量に発見されました。

長方形や円形になる竪穴住居跡9棟は確実に判定されますが、多数の柱穴は長期にわたって住み続けたため、住居の建替えや建増しなどの痕跡から、この地に数多くの住居があったとみられます。

貯蔵用の穴は、断面で見た形が袋状やフラスコ状になるのが特徴で、クルマやドングリなどの貯蔵用として使われ60基発見されています。恐らくは、住居跡群に取り囲まれるように、集落の中央に位置していると考えられます。

土器捨て場は、遺跡の南側の窪地を利用して、壊れた土器や石器、あるいは食べた残滓(ごんさい)などを捨てています。全体で整理箱900箱ほど土器や石器が出土していますが、700箱近くが土器捨て場からのものです。



遺跡全景



土偶出土状況



土偶部分片



土偶(縄文ヴィーナス)

みずきだ  
水木田遺跡（最上町）

発掘調査は、改田の工法上削平される場所を中心に調査が進められたため、遺物の大きさの割には調査区が限定され、集落全体の様子を明らかにすることが出来ませんでした。

発見された遺構は、楕円や円形を示す竪穴住居跡8棟、貯蔵用の穴になる土坑12基などです。

出土した遺物は、土器や石器を中心に整理箱1,000箱になり、その大半が土器捨て場からのものです。



縄文土器深鉢

はらのうち  
原の内A遺跡（尾花沢市）

発掘調査は、道路改良および農業水利事業にともなって、幅6~10mと限定され、縄文集落の全体が明らかになりませんでした。

竪穴住居跡は、西側の県道調査区で12棟、東側の農業水利調査区で49棟それぞれ検出されました。貯蔵用の穴の土坑(フラスコ形)が、16基発見されました。その他、配石遺構(石の列)や埋設土器(墓坑)なども見つかっています。

限定された調査ですが、縄文時代中期の特徴である環状集落の形を示しています。出土した土器など整理箱480箱になります。



埋設土器



フラスコ状土坑

なががわら  
中川原C遺跡（新庄市）

発掘調査は、掘削や削平される地域に限られ、集落縁辺を弧状になるように進められました。調査の面積は、遺跡面積に対し1割弱の範囲に留ったため縄文集落の全体を明らかにすることができませんでした。

集落の構成は、縁辺部に沿うように、竪穴住居跡群や土坑群など半弧状に連なっています。住居は、大きさは4~5mの楕円や円形になる竪穴住居跡15棟検出しています。中でも大型の長さ8m~10mの方形の掘立柱建物跡7棟、一般住居と異なった共同の家が発見されています。西ノ前遺跡などで見られた多くの貯蔵用の穴が、少ないのが特徴です。出土した土器や石器は、整理箱で1,060箱になります。規模や内容から考察すると、この地域の中心的な、大規模な集落といえます。



土偶出土状況



陥し穴(おとしあな)内逆茂木(さかもぎ)

だいのうえ  
台ノ上遺跡（米沢市）

発掘調査は、遺跡の中央部を中心に6年間にわたって進められ、竪穴住居跡71棟、土坑352基、埋設土器90基、列状配石遺構2基などの遺構が、調査区全体に密集し重複しています。

竪穴住居跡は、長方形で長さが8~12mほどの大型竪穴住居跡3棟と、大きさ4~6mで円形あるいは楕円形の竪穴住居が混在しています。住居跡群は、西・南・東へと半円を描くように、建てられています。土坑群は、断面がフラスコ状や袋状を示す貯蔵用の穴が、住居群の北と南にあります。住居群の南・外側にも造られることは、特異な類型です。遺跡の規模や内容から考察すると、この地域の中核となる遺跡です。



竪穴住居跡



土偶出土状況